

# 榮光

763号

2025年11・12月

日本基督教団  
田園調布教会  
伝道部発行

〒145-0071  
東京都大田区田園調布  
3-34-18  
電話 03-3721-2811  
FAX 03-3721-2814  
<https://den-church.jp/>

## 主をあがめる

ルカによる福音書

一章四六～五六節

牧師 山北 宣久

マリアは旅の途上で、客間の外の家畜小屋でわが子を誕生させねばならなかった。母として、こんな惨めなことがあるだろうか。母たる者「自分はどうか扱われてもいい。しかしわが子が飼葉桶に寝かせられるとは。」と思つて涙するであろう。

それだけではなかった。お産の直後、ヘロデ王に追われエジプトへの逃避行をする。激烈く厳しい宣教の闘いを続けたわが子は、あろうことか、十字架上で殺される。それを目の当たりにしなければならぬ。それが母マリアの現実であつた。

然しである。マリアは神をさんびしていくのだ。幸福であることは人を表現的にさせる。そして、最も純粋な表現は神をさんびすることであろう。そのさんびの言葉を今夕、ともに耳にした。

このルカ一章四六節以下はラテン語聖書の

書き出しから、古来マグニフィカートと呼ばれている。「マリアの賛歌、頌」という意味である。

このさんびは美しいだけでなく、激しい。これは革命歌だと言った人がいる。

五一節「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし」 道徳的革命的調べだ。五二節「権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ」 これは社会的革命・変革の調べである。

五三節「飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追ひ返されます」 これは経済的革命的調べである。

この革命的調べが、実際主イエス・キリストによつてもたらされることを福音書記者は証していく。

マリアは世界最大の革命歌ともなぞらえるさんびをヒステリックに金切り声で歌わなかつ

た。むしろ、静かに淡々と口に上らせた。

自分は「身分の低い、主のはしため」と言っている。本当にそう自覚していたのだろうか。

そして、冒頭で「わたしの魂は主をあがめわたしの霊は救ひ主である神を喜びたたえます。」と歌いはじめたのだ。

さんびする、この原語はメガルノーといつて、「大きくする」という意味である。メガフォン、メガロポリス、メガトン等派生する。マリアは、「わたしの魂は主を大きくします。」と歌つた。

自分を小さくし、神を大きくする、これは本来的でない。人は自分を大きくし、人と神を小さくするものだ。自分の欲望を大きくし他を低め神を小さくする。望遠鏡を逆さにして見る如く、近くにいる神を遠ざけ、片隅に追いやつてしまふのが我々の現実ではないか。私たちは、自分の幸福追求にあくせくするあまり、自らを大きくする生き方がどういうことになるのかを日々知らされている。

際限のない幸福獲得競争の中で、自分のみを大きくすることにより、結局は自己喪失に至る道に終止符を打ち、方向転換としての悔い改めをせねばならない。それは自己さんびから神さんびへの翻りを経験し、その道を歩み続けることだ。

わたしの魂、わたしの霊といった見えない世界を深く掘り下げ、さんびする世界へと共に向かつて行こう。

(二〇二五年一月七日 夕の公同礼拝)